

会 議 録

全部記録 要点記録

1 会議名	第3回姫路市立高等学校在り方審議会
2 開催日時	令和3年11月8日（月曜日） 14時30分～16時25分
3 開催場所	姫路市勤労市民会館 4階 大会議室
4 出席者	（出席者）姫路市立高等学校在り方審議会委員15名 （事務局）教育長、教育次長、教育総務部長、教育企画室長、学校教育部長、 総務課長、学校施設課長、教育企画室主幹、教職員課長、 学校指導課長、人権教育課長
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可、傍聴人0名
6 次第	1 開 会 2 挨 拶 3 議 事 （1）アンケートの調査結果について （2）市立高等学校の目指す方向性とこれまでの取組について 4 連絡事項 5 閉 会
7 会議の要点内容	以下のとおり

事務局	<p>1 開会</p> <p>第3回姫路市立高等学校在り方審議会を開会する。</p>
教育長	<p>2 挨拶</p> <p>(教育長挨拶)</p> <p>本日は、姫路市立高等学校在り方審議会に御出席いただき誠に感謝している。</p> <p>平素は、本市の教育行政の推進に多大な御支援をいただいていることを、改めて感謝申し上げます。</p> <p>兵庫県教育委員会より、9月1日現在の令和4年度高等学校進学希望者数等調査の結果が公表されている。その中で市立高等学校3校においては、いずれも募集定員を大きく上回る進学希望者数であり、市立高等学校3校が中学生にとって進学したい憧れの高等学校であるということを示す調査結果となっている。</p> <p>さて、前回の審議会においては、市立高等学校3校の現状を踏まえながら、高等学校教育のさらなる充実に向けて必要となる視点や課題について、また、高校生、中学生、保護者、卒業生の方々へのアンケート項目について、委員の皆様より様々な御意見をいただいた。</p> <p>本日は、2つの議題について御意見をいただきたいと考えている。1点目は「アンケートの調査結果について」である。アンケートでは、現在高等学校に通われている高校生とその保護者やこれから高等学校に入学される中学生とその保護者の思いや、3校の卒業生の方々の高等学校教育に対する御意見を頂戴している。これらアンケートの調査結果を踏まえて、これからの市立高等学校として必要な要素について皆様方の御意見をいただきたいと考えている。</p> <p>2点目の「市立高等学校の目指す方向性とこれまでの取組について」に関しては、市立高等学校の高等学校教育が今後どうあるべきか、市立高等学校で育成したい資質や能力について御協議いただきたいと考えている。</p> <p>委員の皆様においては、それぞれのお立場から、様々な御意見や御提案をいただきながら活発な審議をお願いできればと考えている。よろしくお願い申し上げます。</p>
事務局	<p>会議成立報告</p>

<p>会長</p>	<p>(公開可否の決定)</p> <p>本日の審議会は、異議がなければ公開とするがよいか。(異議なし)</p> <p>異議なしと認めて公開とする。</p>
<p>会長</p>	<p>(第2回会議録の確認)</p> <p>第2回審議会の会議録について修正等の意見はあるか。(意見なし)</p> <p>会議録として決定する。</p>
<p>会長</p>	<p>3 議事</p> <p>(1) アンケートの調査結果について</p> <p>事務局からの説明を求める。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料1「姫路市立高等学校の在り方に関するアンケート調査結果について」及び資料2「求められている市立高等学校の姿」を用いて説明</p>
<p>会長</p>	<p>アンケート調査結果について、委員の皆様から忌憚のない御意見、御質問等をいただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>本日御欠席の委員から、事前に全体を通した御意見をいただいているので、報告する。</p> <p>アンケートの結果を見せていただくと、学校を選ぶ基準として、自分に合った学力という回答が多かったのが印象的だが、施設の改善など教育環境の充実を求める声も多い点や、ITや国際など充実させていった方が良い分野の意見なども見せていただいた。</p> <p>本市の将来を担う人材を育てていくという観点から、経済界にとっても教育は非常に重要である。少子化の中、子供たちを大切に育てていかないと未来がないと思う。ただ、予算には限りがあるという点を考えると、それぞれに投資することが難しければ、効果的に資本投下していく必要がある。</p> <p>また、市立高等学校の在り方について検討を続けてきているが、地元に貢献できる人材を育成するためには、市立高等学校だけでなく、姫路市全体として、例えば小中高大が一貫した方針のもと、教育を進めていくといったことが必要ではないだろう</p>

	<p>か。姫路市では、このように素晴らしい環境で学べるのだ、といったしっかりとした打ち出しが必要であると考え。</p> <p>との御意見をいただいている。</p>
副会長	<p>アンケートの回収率について尋ねる。中学生が100.0%なのに、なぜ高校生は48.0%なのか。事情があれば教えていただきたい。</p>
事務局	<p>中学生に関しては、1人1台の端末が整備されていることから、学校において回答したため100.0%という結果になっている。高校生に関しては、自宅で自身のスマホやタブレットを使って回答することとなっており、学校で一斉に回答するという状況ではなかったもので、このようになっている。</p>
会長	<p>一番印象的なのは、満足度が高いということだ。その理由が、学校や生徒の雰囲気が良いからということは、素晴らしい。このような文化を継承していくことは、非常に重要だと思う。</p>
委員	<p>概要に、高校生、高校生保護者、中学生、中学生保護者、卒業生をまとめていただいているので、これを見るのが一番分かりやすいと思っている。中学生や中学生保護者は、オープンハイスクール等で学校の様子を見ていたり、兄弟や先輩が行っているという感じで回答したと思う。一方で、卒業生が実際に大学や社会に出て感じたことは大事だと思う。その中で、「高校生活でどのようなことを身に付けてもらいたいか」という設問に対して、「思いやりの心やコミュニケーション力などを含めた人間関係形成能力」という回答が卒業生で多かった。このことから、この力が、社会に出ても大切と実感されているということが分かると思うし、そのことはとても大きいと思う。</p> <p>高校生のアンケートで見ると、「学校や生徒の雰囲気が良い」という回答が多いので、市立3校として、立派な人間形成をされているということを改めて実感した。3校の先生方に敬意を表したいと思う。</p> <p>ただ一方で、卒業生は「社会に貢献するための資質や能力」が必要と言っているが、社会に貢献するための資質や能力とは何なのか。市立高等学校に必要な学科・コースとして外国語や情報処理能力が大切と言っているが、それが、社会に貢献するための</p>

資質や能力に結び付くのだろうか。仕事で必要なので英語が大切だと思っているのか、それとも社会に貢献するために英語が必要だと思っているのか。そのあたりの結び付きが今後分かってくるとありがたい。

委員

小学生では、エモーショナルな部分というか非認知能力と言われているような、我慢をしたり相手と折り合いをつけたり、コミュニケーション力を豊かにしていくというところを培っており、そこはとても大事にしている部分である。先ほど委員がおっしゃったが、高校生活でもそのような力を身に付けたい、保護者も同じように身に付けさせたいと思っておられるところはとても大事な点だと思うし、この後の議論で市立3校の校長先生方がどのようにして高校生にそのような力を育成されているのかということも具体的にお聞きしたいと思っている。

小学校の立場としては、市立高等学校の生徒たちが地域に還元するような、地域密着型の学校であってほしいと思っている。その手立ての1つとして、小高連携を大切にしてほしい。前任校では、同じ校区にある学校の高校生に、例えば出前授業で英語を教えてもらったり、理科の実験をしてもらったことがある。このように、地域への還元の1つとして、地域の小学校へ還元することによって、高校生自身の自己肯定感を盛り上げることができるし、小学生は高校生を身近な将来のロールモデルとして見ることができる。そういうところもこれから大事になってくると思う。

委員

中学生や中学生保護者のアンケートの中で、「高校を選ぶ時に県立・市立・私立の別を重視したか」という問いに対して、「県立・市立は問わないが公立であることを重視する」という回答が多いのはやはり予想通りかなと思う。それに加えて、「あなたは姫路市立高校について進学先として考えたことがありますか」という問いに対して、中学生は6割近く、保護者は7割近くが「考えたことがある」と回答していることから、やはり市立高等学校の人気の高さが伺える。

また、中学生を進路指導する際に、学力に合っていることや通学の便利さという点はやはり外せないところかなとは思いますが、昨今高校の魅力アップが言われている中で、高校を選ぶ視点として「興味のある学科・コースがある」という回答が約35%になっている。この数字から、そういった魅力が子供たちが感じてきているということも伺えるのではないかと。

委員

このアンケート結果から、市立の独自性といったものが必要なのかなと思った。例えば、この播磨臨海工業地域というのも日本有数の工業地帯であるし、そういったところと連携するなどしていくことで特徴が出していけると思う。その点でいうと、24ページにある卒業生の意見は、さすが市立3校を卒業して社会に出ている方のしっかりした意見だなと思った。具体的に、瀬戸内の海産物の養殖産業との連携や、姫路獨協大学がどういう扱いになるかは分からないが、そういったところまでしっかりと考えて連携を作っていくのはどうかなど、なるほどと思う意見があるのが非常に印象的だった。また、学校を残してほしいとか、自分たちの学校はこんな良いところがあるのではないか、こういう立地の学校が必要ではないかというところが非常に色濃く出ていることも印象的だった。

会長

(2) 市立高等学校の目指す方向性とこれまでの取組について
事務局からの説明を求める。

事務局

資料3「市立高等学校の目指す方向性とこれまでの取組について」を用いて説明

会長

内容について、委員の皆様から忌憚のない御意見、御質問等をいただきたい。

委員

今回のアンケートは生徒、保護者、卒業生の意見をよく反映していると思う。

まず、学校行事や、生徒会活動、部活動ということを考えると、一定数の人数がいると思う。また、今後生徒数のさらなる減少により、学級数を減らさざるを得ない中で、学校行事、生徒会活動、部活動などや、現在行っている取組の特色を担保できる教員の質の向上が必要だ。活動だけでなく、活動の質を上げていくことで、将来地域社会に貢献し、そして社会に出て色々な仕事をしてくれる生徒を育成していかないといけない。

さらに、様々な学科・コースがある方が選択肢は増えるだろう。ただ、時代の流れによって変わってくるので、時代の流れに応じてフレキシブルに対応できる学科・コースのビジョンが必要と思う。

あと、最後に私が一番気にしている視点は、アンケートでも意見が多かった施設・設備の充実である。前回会議の資料2「現状と課題について」の最後に書いてある、3校を維持しようと考えたときに「校舎の改修や改築等の費用として、令和42年度

委員

までの40年間に約188億円と多額の費用が必要になる」ということを考えると、ある程度整理をしていく方向が必要という気がする。

これまでの議論を聞いていると、市立3校の魅力や人気度が高いということで、校長先生方のご尽力に敬意を表したい。この審議会は、少子化が大きな問題であるということと、校舎の老朽化という、いわゆる将来的に多額の経費がかかってくるという問題の中で、高等学校における特色や取組を将来につなげるにはどうしたら良いかという話をしていると思っている。

そういう観点から考えると、極端な意見なのでこれに対して御意見いただいて構わないが、私が今考えていることを申し上げる。少子化の中で、教育の質を担保していくためには、一定程度の人数が必要である。そうすると、ある程度高等学校の数を絞っていかざるを得ないのではないかと。そういう中で、姫路市では小中一貫をやっているが、広島市立広島中等教育学校のような中等教育学校は魅力的だと思う。魅力の1つとして、3・3のカリキュラムで生徒を教育するよりも6年間を見通した学習を行うことが可能となる。例えば、探究を3年間でやろうとすると非常に厳しいと思うが、6年間のスパンの中では基礎や研究、発表を行う力をより磨くことができると思う。したがって、大胆なことを申し上げるが、将来少子化が進み、3校が1校になるのであれば、ある程度の学級数を担保して中等教育学校を持つことも考えられる。今後、学校を作る時は、子供たちが憧れ、市民が誇りを持てる学校を目指していけば良いと思う。

また、もし姫路獨協大学が市立化するのであれば、医療や福祉分野での連携も考えられる。高崎市立高崎経済大学附属高等学校も今後参考になるのではないかと。中身は今後考えていかないとはいけませんが、中・高・大の連携もフレームとしては考えられると思う。

委員

今の御意見を受けて、私も中高一貫は、非常に魅力的なのではないかと思う。委員の御意見で中・高・大の連携であるとか、姫路市でこのような人材を育てるから中学からこのようなことをやって、高校ではこのようなことをやって大学を目指すというような考えが必要だと思う。3校を1校にするとか2校にするとか後ろ向きなイメージがあるが、そうではなくてもう少し姫路市の人材を育てるための戦略として、高校をどういう風に変えていくかという前向きな議論ができれば良いと思う。市立の役割

として、アンケートの意見もあったが、地域との連携といったところもぜひ重視していただきたい。

また、以前神戸大学のキャリア講座で講義する機会があり、学生の感想を読んでいると、働く女性の話を初めて聞いたという意見が複数あった。やはり女子学生にとってはキャリアというものが遠いのだなと実感したので、男性・女性を問わず姫路市の将来を担っていく人材を育成するとともに、特に地域から女性が出ていくということが課題になっているので、女性が地域に魅力を感じて残ってくれるような教育も考えていくべきだと思う。

もう1点、財政的な話があるかと思うが、あるべき教育の姿を考えて、企業版ふるさと納税など新しい枠組みを使って積極的な投資をすることも考えていただきたい。

委員

市立3校とも中学生や保護者からとても人気があるが、これは複数志願制度の中で各学校の偏差値がうまく区切られていることが理由の1つだと思う。

また、アンケートの中で学科・コースについての意見もたくさんあったので、新たな特色の中に今持っている学科やコースを入れていただけたら、ノウハウも活用できるしありがたい。

また、多くの意見が出た連携については、企業や部活に関しては姫路のバレーボールチームと連携するとか、極端なことを言うと、放課後は塾と連携するなど、県立とは違うようなところを出したら特徴が出るかなと思う。

委員

課題となっているのは、施設の老朽化や生徒数の減少という点であり、そのあたりをいかに解消していくかという手立てを考えないといけない。それと、今回のアンケートを見ても、それぞれの学校にある学科・コースについては、一定の魅力を生徒、保護者の方に提供できていると察している。ただ、どうしても生徒の減少が現場にとって一番大きなことで、先ほどもあったように人間関係形成能力を培おうとした場合には、やはり多様な生徒たちが接する機会を確保していくことが必要と感じる。そういう意味では学級数は6学級以上が必要である。他市では8学級や10学級の市立高等学校もあり、統合させることによって学級数を確保することも例として考えられる。

また、3校とも学科・コースがあるので、仮に統合したとしても、それをしっかり維持させることによって、それぞれの特色ある活動が継続可能となる。特色ある学

科・コースの活動の方がパイロット的に校内にどんどん広まっていくという部分があるので、普通科の生徒にもより多様な学びが広がっていくことになると思う。

当然、グローバルな視点も必要だけれども探究的な要素も必要であるし、高齢化社会の中にあっては、いかにその問題を解決させていくかということもこの地域の1つの課題になってくる。生徒自身、生徒会の活動などをさせる中で、課題を投げかけると生徒なりに色々な意見を返してくれるので、そういったものは様々な話し合いの場を作り上げることによって、活性化できるのではないかと。生徒の意見はまだまだ頼りない部分もあるが、課題提供という点でも今ある3つの学科・コースで学んでいる学問がそのつながりになっていると思う。

先程委員がおっしゃった中高一貫はとても魅力もあるが、6年間全く同じメンバーで学ぶことになる。私自身の考え方としては、人との広がりということで言うと、姫路の全地域から中学生を集めて、多様な生徒が共に学び合うことが重要だと思う。私の偏見かもしれないが、例えクラス替えがあったとしても中高6年間同じメンバーの中での学びをさせるよりも、多感な年代の時期には、色々な生徒との交わりが必要かなと思う。

私論ではあるが、施設の老朽化や学級減を解決するためには統合はせざるを得ない状況にあるのかなと思っている。ただし、統合するに当たって、それぞれの学校の特色はうまく生かしていきながら、先ほど申し上げたように、多くの生徒が1つの校内の中で色々な活動での学びを行う。部活動も3校とも非常に熱心で、そこからの学びも非常に大きい。これはなかなか教室の中で実践できることではなくて、多種多様な学びがそこから生まれていっていることを私も感じている。

結論めいたことを言ってしまったが、あくまでも一個人の考えとして、できれば今後そういったところを考えていただけたらと思う。

委員

立場的に非常に言いにくいというのが本音である。私としては、市立3校の人気があるというのは姫路市の教育委員会の支えがあったからということが根底にある。また、中学校訪問をした時に「何かあったらいつでも助けるから」と中学校の先生に言われたことを非常にありがたく思っている。琴丘高等学校で100周年、姫路高等学校で80周年、飾磨高等学校でも来年80周年になるが、この長い期間、姫路市の教育委員会をはじめとして、色々考えてこられて今があるということである。

今まで姫路市に支えられてきているわけだが、もし今言われたように統廃合をされ

	<p>るのであれば、より一層細かいところも含めて色々なところを考えてやってもらわないといけない。今の学校をより一層良くしないといけないという中でやっているの で、慎重に丁寧に考えて議論を尽くしていただきたい。</p>
委員	<p>統廃合の話となっているが、この審議会ではどこまで話しあうのか。</p>
会長	<p>具体的であればあるほど良いと思っているが、教育長はいかがか。</p>
教育長	<p>生徒数の減少や学級数の減少の中、市立高等学校をこのまま置いていくこともあれば、ある程度統廃合して、中高一貫や大学と連携することも考えられる。ただ、県立高等学校はある程度、整理していく方向で動いていることも考慮に入れておかないといけない。現在の市立高等学校の特色も生かしながら、心の面であるとか、社会に貢献できる力を身に付けるとともに、姫路の未来を背負っていく子供を育成していける高等学校にしていきたいと思っている。</p> <p>また、御意見を聞かせていただく中で、県立にない市立高等学校独自の方向性を考えていく必要はあるだろうと思っている。そういった中で、ある程度校数を絞っていく必要があるとか、子供たちが身に付けていかななくてはいけない資質や能力などはある程度はっきり示していけたらと思っているが、カリキュラムや校数の削減の方向を具体的に示してもらったところまではいかないと思う。たくさんの方にアンケートに御協力をいただいているので、その方たちの思いを生かしていけるような高等学校にしていくための方策をある程度まとめていただけたらと考えている。</p> <p>それから、これだけ子供が減ってきているにもかかわらず、引きこもりや、最悪の場合自殺してしまう子が増えてきている。これは私の思いだが、小さいころから社会に貢献しようと思っている子供はなかなかいないと思う。そういった気持ちというのは、福祉体験で施設に行く時や、小中学校で児童と接する時に感謝の言葉を言われることで芽生えるものだと思う。そういった経験も大事だと思うが、私は少々の苦労があっても、最低限社会に出て経済的に自立していく力をつけないといけないのではと思っている。仕事をするということは、税金を納めることなので私は社会に貢献していることにつながると思うし、仕事をすることによって、間接的に誰かが恩恵を受けている。そのため、こうした力をつけることに加えて、先ほどから出ている連携をしながら、色々な形で自尊感情を高めることで、社会の役に立ちたいと思うような子供</p>

委員

たちを育成していける高等学校になっていけばと思っている。

私も本校に着任する前は県の教育委員会で再編や統廃合をやってきたので申し上げるが、学級数によって教員数が決まるので、4～5学級で学科を維持することは大変な労力がある。学科はフラッグシップでその学校のカラーを決めるものなので、そこを熱心にするには教員数が必要となる。学科で生み出したものを他の普通科でやっていくためにも教員数が必要である。私が考えるのは、1～2学科を作ろうと思えば10学級、70人規模の教職員が必要であるだろうと思っている。県立高等学校の学級数がどんどん縮小していくと、姫路市にも学級数の削減の要望が来るだろうから、合わせて10学級くらいになった時は1つの学校にせざるを得ないのではないかと。

一方で、3つの学びを残すという意見が会議やアンケートでも出ているが、学校を統廃合するときに、元の学校にある学科をそのまま持ってくると、学校が分裂し1つにならないということがあるので、どれか1つの学科を選ぶか新たな学科を作るのが良い。例えば、地域社会に貢献する学科であるとか、地域の未来を考える学科などはどうだろうか。第2期姫路市教育振興基本計画の目指す人間像の中で「ふるさとを愛し、社会の持続的な発展のために連携し、協働できる人間」という文言があるので、これをスクールポリシーのフラッグシップに位置づけ、そういった学科を目指していく。その中に琴丘高等学校や姫路高等学校、飾磨高等学校で行っている学びを学校設定科目として残していく。学びは残していくが、学科全体としては新たなものを生み出していくことで学校の伝統は継承していけると思うし、学校は1つになっていけると思う。

また、委員のおっしゃった中高連携はとても魅力的だ。高校を作ろうと思ったら勝てる学校にしないといけない。新たなことをするにも、勝てる学校は中高一貫校だと思う。併せて大学との連携もとても魅力的だと思うが、大学は市長部局の管轄になるので、運営は教育委員会ではなく、市長部局になるというリスクも考えないといけない。さらに、中学校で選抜するという事は、複数志願制度から外れるので、よほどこの学校へ入学したいと思う生徒ではないと選んでももらえない可能性もある。そういう中で中高一貫を取り入れるには、強みとなるものが必要だろう。そのため、非常に戦略を練って、委員がおっしゃったように、マイナスイメージではなくて、勝っていくイメージというのを考えていただけたらと思う。

委員

アンケートにおいて、学校を選ぶ視点として交通の利便性という意見が多いので、仮に3校を1校にするのであれば、その1校は交通の便が良い新しい場所にできれば申し分ない。そこで中高一貫をして、中身は今後整理して研究しないといけない。ただ、例えば人間性や社会性、道徳性はどの学校でもやらなければいけないことなので、大きな枠はこのようにして、中身はこれから整理をして考えていかないといけない。

また、委員がおっしゃった管轄の件だが、県では確かに大学は知事部局で、高等学校は教育委員会の管轄だが、それは法で決まっているのか。大学も教育委員会で管轄できるようにならないのだろうか。

会長

初等中等教育が教育委員会の管轄で、高等教育は市長部局が管轄となっている。

教育次長

教育にお金のお話を持ち出すのは下世話な話で良くないかもしれないが、長年財政の部署に所属していたので、姫路市の台所事情を少しお話させていただく。

古い話になるが、平成元年当時は、福祉にかけるお金はおおよそ市の予算の12%だった。それが30年経った平成の終わりには4割になり、福祉にかけるお金がますます増えている。一方で、道路や橋、公園を作ったり、下水道を整備したりするいわゆる社会基盤整備にかかる費用は、平成元年は33%だったが、30年後には15%程度と半分になっている。いわゆる戦後復興で、社会基盤整備をどんどん行い、ある程度インフラの整備ができた頃には、市民・国民の目はだんだんと福祉の方に向けていったということがこれで分かると思う。福祉がこの30年で非常に充実してきた反面、社会基盤整備はある程度落ち着いていっている。その中で教育費の予算は大体一定で10数パーセント付近となっており、市の予算規模がどうなるろうとも、教育予算はある程度一定規模をキープしてきている。

ただ、地方自治体の予算規模は人口に非常に密接に関係している。景気による影響も多少はあるが、景気が悪くなくても、国からある程度交付税が交付され、税収が良くなったら交付税が減ることになるので、地方自治体の予算規模は税収よりも人口に依存するところが大きい。姫路市も人口減少が始まっており、そうするとおのずと、市の予算規模も今後拡大することは望みがたくなってくると思う。その中で予算の比率を考えると、少子高齢化により福祉のお金は今後ますます増えていくと思われる。また、一旦絞っていった社会基盤整備についても、道路や橋の老朽化は喫緊の課題であるため、こちらのリニューアルにも手を入れなくてはならないとなると、教育につ

いても、今後予算を増やしていこうと頑張っているものの、何とか現状をキープするのが精一杯というのが実感としてある。4月から教育委員会へ異動となり、その中でも感じているのが、いわゆる障害児教育で、私たちが子供のころと比べると、非常に大きなウェイトを占めてきている。子供は減っているのに、1人当たりにかかるお金は増えており、それでもまだ足りないという状況である。本当はもっと義務教育にお金をかけたいが、それもなかなかかなわないということがある。

現在市立高等学校3校には年間約15億円の予算がかかっている。3校で割ると1校当たり5億円くらいになると思うが、これを今後増やしていくのは非常に難しいと思われる。ただ何とかこれをキープしていくということになると、15億円を3校であれば5億円だが、2校であれば7.5億円、1校であれば15億円ということで、数字の話ではあるが、統合による財政的なメリットというのは誰が見ても明らかである。これは姫路市の話と申し上げたが、いずれの自治体においてもこのような財政状況となっている。

委員

姫路高等学校は企業の方が来られる場を設けるとか、琴丘高等学校は英語を生かした学習で地域と密接しているとか、飾磨高等学校は福祉など3校それぞれ力を入れているものがある。全体的に考えると、学校を選ぶ時に最初は、成績に見合った学校をお子さんと親とで決める。2番目は通学の時間や費用で決める。あともう1つは、高校の雰囲気で決めると思う。そのため、3校が今力を入れているところは、保護者としては続けてほしい。そして、気付きの場が必要と思うので、中高や大学との連携があってほしい。

最後に、学校を1つにまとめる場合には、語学と学習とお金の3つの面が潤うようにまとめてほしいと思う。

委員

個人的な話をさせていただくと、地元にある古知幼稚園が統廃合によって置塩幼稚園に吸収された。夢前町は山間部に位置しており、非常に子供の数が減少している。なおかつ、高齢化率はとても高く、隣近所を見回しても独居老人がいらっしやり、気が付いたら入院しているなどという状況で、姫路市の人数が減って、子供の人数も減って、学校も減ってという現状を目の当たりにしている。

長男が中学校2年生になるが、最近高校進学の話をし始めた。長男が通っている学校は1学級の学校で、小学校も中学校もクラス替えを経験していないため、親として

は、できれば市内の人数の多い学校に行ってみてはどうかという話をしている。中学校や本人のレベルがまだはっきり分からないので、希望的観測の中で、自転車で通える学校を探している。夢前地域であれば、姫路高等学校や琴丘高等学校は通学圏内だが、さらに奥の安富地域の保護者の方は、行かせたい学校が中心部に集中しているので、どの学校に行かせようか悩んでおられる。親としては子供の学力に見合った学校で、なおかつ無理なく通える学校が減ってしまうというのは、子供の選択肢を大人の事情で潰してしまうことになるため避けたいと思っている。一方で、先ほどもお話があったみたいに多額の経費がかかってくるという話なので、統廃合によって学校がなくなってしまうことは寂しいが、メリットがあるということを親が勉強する必要があるのかなと思う。親がメリットを理解しないと何も前に進められないと思う。ただ、その学校を卒業された方の思いも考えるとなかなか難しいとも思う。

委員

自分の子供が高校を決める時には、将来の目標もなく、ただテニスをやりたいという理由だけで中3の入試を迎えた。親の意見も多少はあるが、3年間通うのは子供本人であるため、子供の意見を尊重してきた。結局、自転車で5分とかからない学校へ行くことができたが、通学に時間がかからないというのは本人の負担がとても軽く、親としても帰りが遅くならず安心できた。

また、子供の将来の目標がなかった時に、親としては高校の3年間は通過点としてその後の大学と就職にウエイトを置いていた。ただ、当時の中学校の担任の先生に、大学を出て就職に困るようであれば、高校を出て手に職を付けたほうが良いのではないかと本音を相談したことがある。すると、子供がこれを勉強したいという気持ちがないのであれば、普通科に行かせた方が良くと勧めていただいた。高校に入学すると、学校が将来の進路を見据えたカリキュラムを早くに組んでくださったので、自分のやりたいものを早くに見つけることができ、3年後には、その願いを叶えることができたので、普通科を選んで良かったと思っている。

最後に、財政難という話があったが、住みやすい街づくりをすると経済や環境などが良い方向に回っていき、そうなる、たくさんの人が住むようになり子供も育てやすくなると思うので、市には頑張って住みやすい街づくりをお願いしたい。

委員

保護者の皆様がおっしゃったことがひしひしと身に染みる。選択肢が色々あるので、願わくば市立3校がそのまま残れば良いと思う。ただ、財政的にどうしてもとい

会長

うことであれば、新しい学校を作るに当たり思い切った改革をすることが大事と思う。例えば、市立船橋高等学校のように全国から子供たちが集まってくるような学校もあるし、県内でも市立尼崎高等学校のようにバレーや柔道などがやりたいという生徒が集まる学校もある。何も奇をてらう必要はないと思うが、もし統廃合をするのであればニーズを汲み取って、どうしても市立が良いと言われるような持続可能で魅力のある学校を作っていただきたい。

また、制度的に可能かどうかは分からないが、人づくりという面で言うと、オール姫路で市立高等学校を支えていくのであれば、小学校や中学校と高等学校の教職員の交流を行うなどの大胆でここにしかないというものを考えていくべきだと思う。

非常に幅広い様々な御意見をいただいた。

1つは、少子化の進展や、施設改修に莫大な費用がかかること、市の教育費も増えそうにないといったようなことから、場合によっては学校の数を1つに減らしていくという方向が皆さんから出された。例えば学校を1つにするとした時に、学校の大きさが一定程度以上ないと、教員数も確保できなくなり、特色や魅力も出しにくいだろうということだった。そのため、学級数を幾つにするかは言いにくいですが、私は少なくとも県が目指している方向よりも少し上の方が良いのではないかという気がする。そうすると、県立の中に埋没しなくなると思う。

では、その中身をどのように作っていくかということになるが、この3校は人気がある。学校の雰囲気非常に良く、学校生活がしやすいとか、中学校の先生も市立高等学校を支援しているというようなお話もあった。そして、市立3校はそれぞれ探究や看護、国際といった特色も持っておられる。そのため、3校の雰囲気の良さや学科・コースの特色をまとめて生かせないかという意見があった。ただ、これまでの学科・コースの特色を生かすと同時にそれを基にしつつも新しいものを作った方が、思い切った改革になるし、言葉は良くないがそれまでの派閥意識みたいなものも解消されるのではないかといった御意見もあったかと思う。そのため、いずれにしろ今の市立3校の良さを生かして新しいものを作り上げていく必要がある。もちろんそこには、国の政策も関係してくるので、そこは十分取り入れるべきだと思う。また、その中には、多様性の中での学びであるとか、生きる力や、たくましさ、レジリエンスなど、そういうものを持った生徒を育てるとか、姫路に貢献できる人材を育てるといったことをよく考えていただくことになる。

	<p>さらに、縦の連携を考えてはどうかとの意見もあった。中学校との連携や、場合によっては、中等教育学校の設置を考えても良いのではないかという御意見もあったし、大学との連携も考えられるのではないかという御意見もあった。少し言いにくいですが、個人的には大学との連携はしっかりしたところとやった方が良いと思う。市が大学を持つとしたら、おそらく交付税措置で賄われる。それが、大学全体を見たときに良いと思わない。色々な地方で公立化を進めているが、あの動きは私学間の公平競争を妨げると思っている。大学と連携するのであればしっかり考えていただきたいなというのが私の個人的な意見である。</p> <p>他にも御意見があったかもしれないが、私としてこのようにまとめられるのではないかと思っている。次回は、おそらく答申の方向性をまとめたようなものが事務局から出ると思っている。またそれについて、色々と議論できればいいのかなと思う。</p> <p>それでは他に御意見・御質問等がある方はおられるか。</p>
会長	<p>本日の2つの議事はこれまでとする。</p> <p>議事を事務局にお返しする。</p>
事務局	<p>4 連絡事項</p> <p>次回、第4回審議会は1月13日（木）14時30分からを予定している。</p>
事務局	<p>5 閉会</p> <p>以上で本日の審議会を終了する。</p>